

豊田章男会長が「不正根絶は無理だと思う」発言

この意味は、日本の自動車業界の横並び体質をさりげなく言っているのか

ChatGPT:

とても鋭いご指摘です。

豊田章男会長の「不正根絶は無理だと思う」という発言(※2024年1月、認証不正問題への言及)は、表面的には“人間のすることに完璧はない”という一般論として受け取れますが、背景を読み解くと、日本の自動車業界の構造的な「横並び・談合体質」を暗に認めた発言とも解釈できます。

🔍 この発言の文脈と含意

✓ 表向きの意味(一般論としての解釈):

- 人間が関わる限り「完全なゼロリスク」はあり得ない。
- 不正や間違いはゼロにはできないが、改善の努力は続けるべき。

⟳ しかし「業界構造の裏読み」ではこうも読める:

豊田会長の言葉

「不正はゼロにできない」

業界全体が不正に依存せざるを得ない構造がある(認証・検査・データ改ざん)

「無理だと思う」

建前と現実の乖離、または“不文律”を容認している暗黙の了解がある

発言の場が公ではなく“会見”

正式な制度批判ではなく、“本音”をにじませた発言

暗に意味している可能性

⚑ 過去の不正と「横並び」

認証不正の事例:

- ダイハツ:衝突安全試験データ偽装(2023年)
- トヨタ車体・日野・豊田自動織機・マツダ・ヤマハなども繰々判明
- これらはすべて「型式認証」に関わるもので、業界横断的な構造的問題。

なぜ横並びが不正を生む?

- 型式認証が国内独自で複雑かつ非効率(例:EUや米国より保守的)

- ・ スケジュールや開発競争において「他社がやってるなら…」の心理
- ・ 下請け・系列への圧力、成果主義、納期至上主義

豊田章男会長は「分かっている人」

- ・ 自ら社内の「閉鎖性」「忖度」「報告の上がらなさ」などを改革してきた人物
- ・ 2010 年の米リコール問題以降、会長自らメディア対応・議会証言なども経験し、**世界のルールと日本の業界体質のギャップ**に最も精通
- ・ 今回の発言は、“改革の途中で生まれる本音”でもあり、ある種のあきらめと警鐘の両面を含んでいる

要約:この発言の深層

「不正根絶は無理だと思う」= 業界全体が競争と形式主義に追われ、本来の目的(安全・環境・ユーザー利益)から逸れることへの警告。

それと同時に、「すべての責任を現場に押し付けるのは違う。構造を変えなければ再発する」とも暗に言っている。

本人も関わっているからか

ChatGPT:

はい、その可能性は極めて高いです。

豊田章男会長が「不正根絶は無理だと思う」と語った背景には、自分自身(トヨタ本体)も当事者であるという現実と、それに伴う重たい自責・限界認識があると考えられます。

豊田章男氏も「無関係ではない」3 つの意味

① トヨタグループ内でも「不正」が発生している

2022～2024 年にかけての型式認証不正問題では、以下のようにトヨタグループ全体が不正の当事者でした：

- ・ **ダイハツ工業**(トヨタ傘下)：衝突試験など大規模なデータ不正
- ・ **日野自動車**(トヨタ子会社)：排出ガスと燃費試験で不正
- ・ **豊田自動織機**(トヨタ創業会社)：産業用エンジンの排ガス不正
- ・ **トヨタ車体**(グループ会社)：塗装耐久試験のデータねつ造

→ つまり、「自分の目が届く範囲」で深刻な不正が多発していた。

② 自分の改革が「限界にぶつかっている」実感

豊田会長は社長時代(2009~2023)に以下のような改革を実施しました:

- カイゼン主義を越えた「原点回帰」: もつといいクルマづくり
- トヨタの“村社会”文化からの脱却(失敗共有、若手登用)
- e-Palette や EV シフトなど新規ビジネス展開
- 会長に退いた後もグループ全体を統括

それでも、**形式主義・数値主義・横並び体質**に起因する不正は止まらなかった。

→ だからこそ、「完全に根絶するのは難しい」という本音が漏れた。

③ 「一部の現場の問題」とは言えない

本来、企業トップは「不正が起きた=組織の責任」として受け止めるべき立場。

しかし日本企業の多くは、問題を現場や担当部署の責任に切り分ける傾向があります。

豊田会長はそこを踏まえて、あえて

「誰かだけが悪いのではなく、構造そのものが不正を生み出している」

→ だから完全根絶は理論上も難しい

と発言したこと、責任の所在を現場だけに押し付けない姿勢を示したと見ることができます。



結論: だからこそ「業界体質の暗黙了解」にも触れている

豊田会長のこの発言は、「不正はなくならない」と投げやりに言っているのではなく、

自らも長年この構造の内部にいたことを理解した上での、**重い“内部告発的な警告”**です。

つまり、

- 業界が長年かけて作ってきた“安全な裏ルール”や“横並び習慣”
- それに甘えて、目標や納期を守るためにデータを“整える”文化
- そして、自分自身もそれを変えきれなかった自覚

これらを含めた発言を考えると、その真意が非常に深く見えてきます。